

令和6年度 第3回郡山市中小企業及び小規模企業振興会議 会議録（要旨）

日時：2025（令和7）年3月17日（月）15:00～16:40

場所：郡山市役所西庁舎5階 5-1-1会議室

【出席者】

委員：初澤敏生会長、臼井一雄委員、宇埜康平委員、大滝秀雄委員、大槻礼子副会長、河内勉委員、小林文紀委員、佐藤保委員、諸橋有紀子委員
（欠席：大橋真孝委員、鈴木英夫委員、柳沼広人委員、柳田美華委員、吉田由美子委員、鷲谷恭子委員）

事務局等：桜井産業観光部長、齋藤産業雇用政策課長、古川産業創出課長、馬場産業雇用政策課長補佐、佐々木産業雇用政策課雇用政策室長、小島産業雇用政策課産業政策係長、高橋産業雇用政策課産業振興・輸出推進係長、伊達産業雇用政策課産業政策係主任、浅野産業雇用政策課産業政策係主査、島村観光政策課観光開発係主任

【傍聴者】：なし

1 開会（司会：伊達主任）

2 会長挨拶

- ・年度末でご多忙の中、委員の皆様にはご出席いただき感謝申し上げます。
- ・本日は今年度最後の会合で、前回の会議を受け市から色々な回答をいただいていることに対し、委員の皆様の忌憚のない意見をお願いしたい。

3 議事

会長が議長となり議事を進行。

(1)令和7（2025）年度 郡山市産業振興重点施策について

事務局から資料1、資料2により、令和7（2025）年度 郡山市産業振興重点施策について説明。

（初澤会長）

- ・ただいま事務局から説明がありましたが、最初に資料2に関して、委員の皆様からお一人ずつご意見等をいただきたい。

(臼井委員)

- ・意見をした内容を検討していただいたと承知しており、引き続きその方向でお願いしたい。

(宇埜委員)

- ・第2回の会議に回答いただいたことが記載されており、その時に了解しているので特に問題ない。

(大滝委員)

- ・成功事例をよく情報共有してほしいという話をし、事務局の回答をいただいているので、引き続き進捗を見守っていききたい。

(河内委員)

- ・若い女性の県外流出について、福島県は一昨年がワースト1、去年はワースト5である。いわゆる家父長制的な福島県民の男性の考え方を変えていかないと女性の県外流出は無理ではないか。
- ・特に男性の意識を変えていかないと女性はどんどん流出してしまう。去年のワーストワンは鹿児島県であり、家父長制的な意識が強く、子育て等女性だけのワンオペになっている。県民意識を変えていくのが課題だ。
- ・意識改革と合わせて、女性が働きやすい環境の会社を提供していく必要がある。
- ・同友会郡山支部としても最優先事項として、今後とも意識改革していきたい。

(佐藤委員)

- ・記載のとおり、予算の事情も理解したし、今後はPDCAを継続的に回していただければと思うので、引き続きよろしくお願いしたい。

(初澤会長)

- ・もう少し具体的な回答をいただきたかった。
色々なところにヒアリングをしているという回答で、その結果、何をやるのかというところまで踏み込んでお答えいただけるといいかと思う。
- ・事業化を進めるにあたり、何をやるかが大変重要で、別の自治体で、教育旅行を誘致し何を求めるかを調査することは大変だと言われた。これでは誘致が成功するわけがないので、どのような形でやっていくのか今後ご検討いただきたい。

(齋藤課長)

- ・河内委員の福島県は女性が減少しているという話はその通りで、福島県内の現在20歳の世代は、東日本大震災・原発事故の影響もあり、女性が少ない。
- ・郡山は県内の人口のダムになっていて、周辺の自治体の方が来てくださっているが、ダムになりきれず、社会の考え方、男女の考え、役割分担的な考えが古いと

ころで若い女性が流出しているというのはその通りだと思う。仙台も今ダムの機能がなくなってきて仙台市も2年連続人口減少し、5年ほど早く人口減少社会に入ってしまった。仙台市もかなり危機感があるので仙台市と一緒に色々事業を進めていこうと考えている。

- ・前回、佐藤委員から、言葉としてここには選択と集中という書き方をしたが、佐藤委員は尖ったという表現をされたかと思う。
- ・3月8日（土）に、私どものスタートアップ支援の採択者で私どもの事業に手を挙げて採択した10者を支援してきて、1年間の成果を発表した会があり、地元国会議員2人、周辺の自治体や県の担当職員にもお越しいただき、郡山は尖った事業やっていると言っていた。
- ・仙台や東京、福岡と比べると尖ってないと思っているが、納得いただけるような尖った政策もやっていく。

（初澤会長）

- ・では、この資料1について、河内委員お願いします。

（河内委員）

- ・部の組織改編について、農商工部になるが、今の産業観光部とどう変わるのか、部長等の組織体制についても教えてほしい。

（桜井部長）

- ・観光課が文化スポーツ部に行き、文化スポーツ観光部に改称される。また、農林部と産業（商工）を統合し、農商工部になる。トップは部長が1人、部長級の理事が1人、次長、課長という体制になる。

（河内委員）

- ・観光を離れた理由は何か。

（桜井部長）

- ・文化とスポーツの視点を生かしながら、一体的に観光の施策を進めていくためである。

（齋藤課長）

- ・詳細を広報こおりやまに載せている。

（河内委員）

- ・フロアも変わるか。

(桜井部長)

- ・今の産業観光部は西庁舎の4階から本庁舎の1階に移動し農林部と合体する。観光は本庁舎の5階に移動する。

(初澤会長)

- ・今度ふくしまDC（ディステーションキャンペーン）が開始される。前回のディステーションキャンペーン時に人の動きが1番大きかったのが道の駅とイベント関係だった。今回、農商工部では観光が分かれるが、どう連携していけるか不安なところもあるがいかがか。

(桜井部長)

- ・現在も市役所の中で、別の部署と必要な時は連携を取りながらやっており、今後も継続して部や課を越えての連携に取り組んでいく。

(初澤会長)

- ・特に問題はないということで承知した。

(小林委員)

- ・DCについて、福島県を今回は浜・中・会津に分けて、浜については、JRの支部でいわきは水戸支部になる。中と会津は東北本社になるので、会社は一緒だが部門が違うので動きについて色々あるようだ。
- ・やはり土地のものを売ることがメインとなり、今回は『発酵』をテーマに地の物を含めて各地の産品を売っていく。

(初澤会長)

- ・前回の福島DCは、動いているのが外から来た人ではなく、内部の人だった。見た目には活発に見えたが、経済効果というものは今一つだったようだ。

(小林委員)

- ・会津は元々観光に長けているのでよかったが、県中振興局という7つ、8つの市町村にまたがってやったところはなかなか上手くいかなかった気がするが、縦に繋がっていければ人を呼び込めるかと思う。

(初澤会長)

- ・いかにして市町村の枠を超えて繋げるのかが大切だ。
色々なところで話を聞くと、ノルマみたいな形で何を出すかが先になってしまっていて、より広域的に協力して生まれた案という発想が弱い。

(小林委員)

- ・ふるさと納税のキーポイントで動いているようだが、一応レールとともにという流れがあるので、ターミナル駅の購入も考えてほしい。

(初澤会長)

- ・郡山には、県中地区を引っ張り、どのようにまとめていくのかという視点を是非持ってやっていただきたい。

(小林委員)

- ・それだけではなく、磐越西線も磐越東線もあり横に繋がっているので、そのような部分も含めて郡山市が中心になってやれたら良い。

(河内委員)

- ・それは政策開発課でやっている「こおりやま広域圏」でやっていくのか。部署はどこでやるのか。

(齋藤課長)

- ・本日説明した事業のほぼ全てが「こおりやま広域圏」の17市町村が対象になっている。先程申し上げたスタートアップの伴走支援や、観光で一緒にというのは、基本的に17市町村が対象の事業がほとんどで、補助金として財政支援するというのだけは、郡山市または郡山市の所在する企業でないといけませんが、現金支給ではない事業はほぼ全て17市町村が対象だ。

そのため、広域圏の事業自体を担当しているのは政策開発課ですが、産業部門の分科会、福祉部門の分科会はそれぞれあり、産業部門の分科会は私どもがやっている。

(河内委員)

- ・それは17市町村の担当者が入り認識共有しているのか。

(齋藤課長)

- ・そうである。このような時代なので、オンラインの会議により認識共有を図っている。

(河内委員)

- ・承知した。今度、小野町で発酵の館を作るようだ。18ページの右下に、発酵まつり開催事業で250万円予算がついており、毎年やっていると思うが、小野町と一緒にできるとよいのではないか。

(桜井部長)

- ・これは去年から始まった事業で、広域圏の方にお声がけをして会場に来ていただいている。実際、昨年も郡山市だけではなく、周辺の企業が出店されている。

(河内委員)

- ・小野町に発酵の館を建てることが決まったらしい。
- ・来年、大規模なスポーツ大会の相談を今2つ受けており、体育館を利用する全国から人が集まる大会で、かなりの人気スポーツで、春と秋に開催予定である。クラブチームと実業団と両方出てくるが、旧観光課かコンベンションビューローと相談するということなのか。

(桜井部長)

- ・助成金を出している。

(河内委員)

- ・観光課へ相談に行けばよいのか。

(桜井部長)

- ・そこを軸にして、場合によってはスポーツとの連携になるかと思う。

(河内委員)

- ・観光課は残るのか。

(桜井部長)

- ・観光政策課として残る。

(初澤会長)

- ・他はいかがか。

(大滝委員)

- ・今の観光のインバウンド関連だが、台湾の方が福島空港に多数来て、猪苗代や会津若松、宮城県や蔵王へ行くという話をよく聞くが、郡山に滞在してお金が落ちるという構図は見えるのか。

(島村主任)

- ・磐梯熱海温泉に宿泊されている方が相当数いる。温泉に入りたい、和室に泊まりたいという方のニーズに応えている。

(大滝委員)

- ・それなりに郡山でも魅力があり、インバウンドで来られた方も郡山にお金を落と

すようなことがある程度定着しているという理解でいいか。

(島村主任)

- ・郡山自体が、他の自治体に比べて宿泊施設が多いので、郡山を起点にして各エリアに飛ぶハブ的機能の位置付けとして旅行プランの中には組んでいただいているようだ。そのため、郡山にも全くお金が落ちていないわけではない。

(大滝委員)

- ・先日、会津若松市役所に行った際に、大雪で大変だが、逆に雪を見るのが初めての外国客もいて、具体的な採算は不明だが、冬場赤字の大型旅館が軒並み採算ベースを上回ったという話を聞いたので、インバウンドの人が定着するような魅力あるルートが定着しているのか質問させていただいた。

(河内委員)

- ・やはり開成山で食事をしてほしい。空港から来て、台湾の方も含めてお茶や食事をし、お金を落としてもらえるようなことができると良いと考えており、旅行代理店と我々PFIの事業者と一緒に今企画立てして、4月以降動き出す。

(桜井部長)

- ・数は把握してないが、駅の東側のショッピングセンター等に買い物に行っているようだ。

(初澤会長)

- ・パーソントリップまではいかなくても、バスの移動経路等は市で調査されているか。

(島村主任)

- ・宿泊者数は調査可能で、各旅館に照会し数値等を把握しているが、旅行会社の調査まではしていない。

(河内委員)

- ・どういうルートでどこに行っているか詳しいのは旅行代理店もしくは観光バス業者だと思う。

(初澤会長)

- ・お客さんの情報を出してくれるかどうかは難しいところがある。

(臼井委員)

- ・13 ページのタイへの海外販路開拓事業について、仙台市とあるが、どういう絡み方をするのか。

(古川課長)

- ・仙台市については、これまでも歴史があり、元々タイに積極的に輸出をしたいということでやっている。来年度、仙台市はメディカルフェアタイランドという催しに、仙台市にある医療系の企業と一緒に出店をする。
郡山市もそのフェアと一緒に出店し、仙台市と事業を進めており、タイへ医療系や食品を打って出ようと考えているので、非常に有意義な展示会になるのではと考えている。

(臼井委員)

- ・ジェトロは東北各県開発事務所があり、仙台の地域統括センターが玄関として一緒に事業をしているので、情報交換をしながらやっていきたい。

(宇埜委員)

- ・5 ページのふるさと起業家支援プログラムについて、新規事業とあるが、対象者は社会企業化加速化支援プログラムを受けた方のみが対象なのか。
- ・ふるさと納税の仕組みを活用した資金調達支援とあるが、クラウドファンディングのスキームとあるとおり、一般の方からお金を募って、ある一定の企画で溜まったら返礼の物をお返しする等、どのようなものか。

(高橋係長)

- ・委員からご指摘があったとおり、社会起業化加速化支援プログラムに採択をされた事業者が具現化する場合に、こちらの起業化支援プログラムの利用が可能になるという想定で今設計をしているところである。実際にふるさと納税の仕組みを活用して資金調達、寄付いただいたものを事業の資金に充てていただくという仕組みを想定している。

(宇埜委員)

- ・創業された方のみが対象か。これから創業される方も含まれているか。

(高橋係長)

- ・すでに起業されていて新たな事業をやる、新たに起業する方いずれも対象になる。

(宇埜委員)

- ・了解した。これはクラウドファンディングで資金調達するというやり方だが、うちは従来の融資制度もあるので、案内等を一緒にさせてほしい。連携をよろしく

お願いしたい。

(齋藤課長)

- ・ 3月8日(土)にスタートアップの成果報告会があったが、2名紹介する。
- ・ 1人は、ある医大の大学院で看護や介護を研究し、介護の認定時に食事やお風呂、排泄の状態が簡単にわかるアプリを開発した方である。介護事業者で、日本人は人材不足であり、フィリピンをはじめ海外の方も大勢働いているので、日本語が詳しくなくてもわかるアプリを開発した。これは、ビジネスになると思っている。
- ・ もう1人は、AIを活用して、どんな野鳥、生き物がいるかを録音機的なものを設置し、鳴き声でそのAIが感知して、天然記念物の鳥が何羽いることを遠隔でわかるものを開発した方がいる。これもビジネスになると思う。
- ・ このようなものに対する資金調達をできたら良いと思い、今後予定と書いているが、このふるさと起業支援プログラムを6月補正でやらせていただきたいと考えている。先程申し上げた実際のスタートアップ支援、社会起業化加速化支援プログラムは毎年やらせていただいているものだ。

(大槻副会長)

- ・ 継続の事業が多いが、事業の執行率を加味した上で、それぞれの金額の割り振りをされているのか。
- ・ 先程PDCAの話があったが、その検証は、私達に説明するのは難しいか。

(齋藤課長)

- ・ まず、今回継続の事業が多い1つの要因として、4月に市長選挙がある。郡山市に限らず、市長選挙がある年は新規事業をあまり上げず、次の市長に財源を譲る。骨格予算というが、市長選挙がある場合は新規事業をあまり上げてないところもあるので、継続が多く見える。
- ・ 執行率は、予算組みをする上で当然検討しており、執行率が低いものはやめるなりやり方を変えるなりしている。執行率が昨年と同程度のもの、予算組みも予算執行率もほぼ100%に近いようなものは、社会情勢が変わらない限りは継続していく。
- ・ PDCAについては、内部で1次評価し、総務部で2次評価、それを外部の委員会があり、そこでPDCAの確認がされたものを公開している。次回は直近のPDCAで主だったものをお話させていただければと思う。

(佐藤委員)

- ・ 先程の尖った投資に合わせて、尖った伴走もしていただけるといいと思っており、創業期に対しての支援の伴走が出ているが、例えば発展期、安定期に関しても販路を拡大する手段の支援はあるが、ステップバイステップになっていない。支援が途切れてしまう。

- ・本来であれば、その発展的になるところまでメンターの伴走をしていただけると非常に良く、予算に限らずというところが1番良い。
- ・産業イノベーションを育てるところになると、メンターのなところ、例えば先程のアプリのところで言うと、ビジネスになりそうなアプリであれば継続した方がよい、もっと規模を拡大するような形で伴走していくが、例えば、メンターであれば、もうやめた方がいいというところも含めて言っていただけると、イノベーションや安心して創業できたりベンチャーできたりするところは個人的な感想であるので、尖った伴走がアイデアとしてあると面白いと思うので是非検討していただければと思う。

(諸橋委員)

- ・来年度4月以降も業務改善助成金が大人気で、他はなかなか難しい。両立支援の代替要員の確保は未だに困難なようで、男性が育児休業を取る話もあるが、働きながらでないと、完全に休むことは難しい企業もあり、うまく雇用ができるような形があればいいと感じている。
- ・先程、女性の流出が激しいという話があったが、県外の大学に行っても空気感が福島県の方が合う、福島の方がやっぱり良い、心の中でどこか郡山に戻ってきたいと思っている子もいるのではないかと自分の子供を見て感じている。
- ・福島県内の大学に進学した他県出身の大学生でも、自分の地元より雪が降らず暮らしやすい、東京や仙台にも行きやすいという話も聞くので、女性も残っていくと私は感じた。

(河内委員)

- ・それは諸橋委員の家庭が良いからで、いわゆる男尊女卑のような意識を持っている男性が非常に多くて、先程、家父長制的であると話をしたが、意識を変えないとやはり戻りづらい。県外へ行ったきりになる。

(初澤会長)

- ・学生が県外に出て、仕事がかっこいい、給料がいくらもらえるなどで判断してしまうと、絶対に地方は不利になってしまう。仙台や東京と比べても、職種の数や給料の額も違うので、そういうところで評価されると、地方は勝ち目が無い。別の表現を設定する必要がある。

(諸橋委員)

- ・子育てで、私も孫ができれば一生懸命やりたいが、そういう環境でみると、親のそばで仕事をするのはとても良いと思う部分はある。私自身、主人の母に面倒を見てもらったので、そういった面では悪いことだけではないと思っている。

(河内委員)

- ・若い女性をどれだけ残せるかというのが課題だ。
県外へ行っても戻ってきてくれる、福島県は過ごしやすいと思ってくれる女性がたくさん増えないと、去年でワーストファイブ、一昨年はワーストワンという傾向が続くのではという気がしている。
- ・家父長制的な意識を変えるというのは県の意向でもあり、我々の意向でもある。

(初澤会長)

- ・福島市の次の総合計画の委員をしているが、福島市は東北地方で初めて子育て大賞を受賞し、子育てに対して非常によくやっている。しかし、市民アンケートでは子育て世代の女性からの評価は非常に低い。それは、子育て大賞などの賞を考えている人の考えや内容と、若い人たちがこうしたいという内容がかなり大きくずれているからだ。子育ての話をするのであれば、若い人に話をさせ、内容のすり合わせをする必要がある。

(河内委員)

- ・福島市は保守的だ。駅前の再開発の問題や吾妻山の太陽光発電の問題などがあるが、保守的な部分が1番ネックになっているという意識を持っている。なぜそれが1番の原因かという、ある程度有名なテナントは仙台や郡山、東京があるのに福島市に来るわけない。
- ・マーケットを考えると、ある程度のファッションブランドやいろんなブランドの店が出店することはあり得ないのに、最初の計画ではいっぱい出てくる予定で作った。その辺が勘違いの元で今もまだ結論が出ず揉めている。

(初澤会長)

- ・あれはかなり大きい問題だ。新幹線が開通した時の計画が過大すぎて、それを40年かかってもまだ解消できてないというのが私の率直な印象だ。新幹線が通ったらそれだけで発展するわけではないのに、それを夢見て、夢を現実の計画の中に持ち込んでしまったということが最大の問題だと思っている。

(河内委員)

- ・私はあそこにサッカー場を作れば良いと言った。浦和や大宮はそう作っている。コンサート会場やサッカー場も駅からすぐの所にたくさんあり、人が大勢来て、お金を落としている。そういう発想をしていかないと多分無理だ。

(初澤会長)

- ・時間の関係もあるので、末永様お願いします。

(福島県信用保証協会 末永様)

- ・4ページの利子補給の助成金について、2,800万円が計上されているが、この対

象期間は1年や2年などの区切りがあるのか。

(高橋係長)

- ・対象となる融資により期間が異なっている。コロナや台風、地震は最長7年であり、融資の種類によって期間は異なる。

(福島県信用保証協会 末永様)

- ・金融機関の利息、金利が日に日に高くなり、12月、3月と上がったので、不足しないようにお願いしたい。
- ・情報提供で、信用保証協会は、金融機関の債務を法的に保証している機関だが、令和5年度の代位弁済額が年間56億円ほどだったが、令和6年度は大体確定で79億、80億円の代位弁済の数字になっている。令和7年度はどのような状況になるか危惧している。
- ・収益の改善で、中小企業は、原材料高や人件費での経費削減はもう限界を迎えている。トップライン（売り上げ）を上げる努力をしている企業に対して何か補助や手当てを考えていただきたい。

(齋藤課長)

- ・新年度予算について、預託金、利子補給にしても、これまでの災害に対する融資や利子補給が少し落ち着いてきており、予算では預託金が28億とあるが、約33億円を28億円に圧縮している。今後、利息の増加について、我々も今後の流れを注視しながら検討していきたい。

(初澤会長)

- ・利子が上がると、信用保証料の補助金の需要が増えてくると思うが、これくらいで足りるという見込みなのか。

(齋藤課長)

- ・これまでの実績と現在の状況で計算をし、現時点では足りる見込みである。足りなくなりそうな場合は、状況を見て補正の対応をしていく。
- ・4ページに表示させていただいているものは、あくまでも郡山市としての制度融資として、最後のセーフティネット分として、市と銀行で協調倍率を3倍でお願いをしている融資のため、一気に利率が上がることはない。
一般的な融資ではなく、一気に上がるということはないので、補正が必要になった場合も急激な金額の増加にはならないと見込んでいる。民間の銀行の融資とは分けて考えることができる。

(初澤会長)

- ・了解した。

(小林委員)

・ 3 ページの省力化投資と脱炭素経営のサポートの中で、今、コロナ融資の方が事業者へのしかかっている。この原材料高、人件費高、エネルギー高は、コロナ時の融資の際はそこまで考えられていなかった上に、トランプ政権になり、さらに苦しくなると思われる。省力化補助金で経営の生業がかなり変わっているものが、7 年度は、より変わっていくと思われ、脱炭素と合わせて 400 万円しかないのはいかがか。

(齋藤課長)

・ 今回の当初予算に計上せず、6 月補正であげる予定の事業が青字で表示され、今後予定と書いてあるが、左側については国の省力化投資補助に上乘せをできればと思っているもので、右側については、企業の事業所の省エネ的な部分を伴走支援していく事業だが、どれくらいの需要があるのか、なかなか掴みきれていないので、予算計上は少なめに見積もって、需要が多そうであれば積み増しを考えている。

(大滝委員)

・ 先程の P D C A サイクルの話で、ぜひお願いしたいのが、スタートアップ企業の育成・成長、若い女性の定着、郡山への U ターン学生の P D の D (ドゥー) のところを大胆に思い切って実行してほしい。

(2) その他

(無し)

5 その他

- ・ 事務局から、来年度の会議の開催予定について説明。
- ・ 事務局から、会議の御礼。

6 閉会